

中央社会保険医療協議会特定保険医療材料専門部会

専門委員意見骨子

平成 17 年 10 月 19 日

松本 晃

1. はじめに

2. 医療機器・材料の特性

- (1) 医療機器・材料と医療の進歩
- (2) 患者のメリット
 - ① 低侵襲治療の実現
 - ② QOL の向上
- (3) 入院期間短縮等による医療経済的効果
- (4) 生産・流通に係る特徴
 - ① 多品種・少量生産
 - ② 短い製品寿命・重い研究開発負担

3. 内外価格差

- (1) 内外価格差発生の経緯
- (2) 外国価格との比較の合理性
- (3) 内外価格差のない機器
 - ① 国内価格と外国価格との間に大きな差のない機器
 - ② 外国価格調整制度導入後の償還価格引下げ
 - ③ 償還価格が手技料に包括されている機器

4. 再算定（外国価格調整）制度

- (1) 医薬品に係る再算定制度との相違
 - ① 外国価格調整の実施のタイミング
 - ② ブランド別価格設定と機能別分類による価格設定
- (2) 産業育成の観点

5. 革新的な医療機器の早期導入

- (1) 国民のリスクに対するコンセンサスがない、わが国における薬事承認
(世界で最後に承認される革新的医療機器)
- (2) 革新的な医療機器に対する保険償還の早期導入